

第1回「にいがた福祉リーダー塾」開講

主催：新潟県労働者福祉協議会

後援：新潟県労働者福祉厚生財団

～労働者自主福祉運動の新たな発展を期しての人材育成をめざして～

「にいがた福祉リーダー塾」は、これまで中央労福協、労働者福祉東部ブロック協議会で実施されてきた福祉リーダー塾が新潟県内において、21世紀社会に対応する次代を担うニューリーダーの育成をはかる目的で実施されました。

新潟労福協では、地域で働き暮らす人たちの抱えている生活問題や雇用に関わる問題の解決には、顔の見える運動が必要であるという観点から、地区労福協運動の強化を掲げています。具体的には、地区労福協を基軸に行政やボランティア組織、NPO、労働者福祉事業団体など、地域の様々な組織と連携し勤労者の福祉向上をめざし広範な活動を地域展開することとしてます。こうした運動を実践するには、何よりも人材の育成が不可欠であり、今般新たな時代に対応する労福協運動を担い、労働者自主福祉運動を創造していく人材育成を目的として、新潟労福協が主催となり今年度より開講されました。

■ プログラム

《2月21日(金)》

・第一講座

「歴史から学ぶ労働運動・労働者自主福祉運動の理念・課題」

・第二講座

「これからの日本社会と協同組織事業団体に期待するところ」

《2月22日(土)》

・第三講座

「連帯経済の担い手としての協同組合へ」

・第四講座

「新潟県内のNPO活動の現状」

■ 講師陣

・第一講座

中央労福協 前事務局長
高橋 均 様

・第二講座

早稲田大学 教授
田村 正勝 様

・第三講座

日本女子大学 名誉教授
高木 郁朗 様

・第四講座

くびき野NPOサポートセンター
事務局長 近藤 尚仁 様

・オリエンテーション

新潟労福協 専務理事
山田 太郎 様

■ (第1期)後期日程

・2014年6月13日～14日

■ 第一講座

歴史背景から、労福協の誕生～ろうきん・生協の成り立ち、労働組合との関係性などをわかりやすく講義いただきました。「業者・お客様の関係から共に運動する主体に」「堺の外へと運動を広げる社会的運動へ」大切なフレーズです。



■ 第二講座

さすが、大学の教授、今起こっている時代のものの見方、背景、動向をグローバルな視点からわかりやすく身



近な興味の引く事象を参考に解説いただきました。「友愛・連帯による世直しと思いやりによる人間的なぬくもりのある事業で生活の安定、向上を目指す。」「ゆとり、公正、

連帯の三位一体の社会を」最後にあそびましょう！と締めくくりました。

■ 第三講座

高木郁朗名誉教授からは、初日に行われた交流会での各単組・構成組織ごとに行われた塾生PRの

部分を引合いにだし、それぞれ高木先生なりのコメントを付して塾生の関心を引き寄せてから、講義に入りました。21世紀前半をにらんで、日本の社会と経済の

あり方を考え、労働組合と労働者自主福祉事業団体がどのような活動を展開すべきかをわかりやすく講義いただきました。高木先生いわく「遊んでばかりではダメ。仕事をするべきだ。」「リーダーは、ブリッジビルダーでよい！」心に残る言葉でした。



■ 第四講座

労働団体では、まだ馴染みがうすい？NPOについてその成り立ちから新潟県内の現状をわかりやすく講義していただきました。塾生のほとんどは初めて聞くようなことばかりであったと思いますが、数年後は、労働者自主福祉運動のウイングを広げNPOと労働団体の関係性も当たり前の相互補完関係になっているといいですね。



◇ 交流会



交流会では塾生相互が懇親を深め、第一期生の自覚を持つために、急遽このリーダー塾に対する意気込みを各構成組織ごとにPR

してもらいました。もちろん、事務局スタッフも…(私は、労金労組に入れてもらいました)。参加に至る経緯はともあれ、新潟県内のニューリーダーが誕生する予感がしました。



会場の様子は、厚生財団HP「ライフプランセミナー開催事業」にも掲載していますのでご覧ください。

編集後記

各地域労福協に先駆け、新潟労福協が最初に地域リーダー塾を開催しました。新潟県は人口減少に伴う地域経済への影響は深刻なものです。県内で核となるリーダーが誕生する事を願って、この事業は当財団としても力を入れていきます。因みにこれまで中央労福協で実施してきた福祉リーダー塾第一期卒業生は、今や、連合新潟会長…。私も第七期生。事業体の中でのリーダーとなるべく精進しなければと決意を新たにしました。(M.I)